

ロンドン国際映画祭2020（2/8～2/15）レポート&感想

この映画祭はロンドン、ニース、マドリード、アントワープ、ミラノとヨーロッパ各地で定期的に行われている一連の映画祭で、Film Fest Internationalという団体が運営をおこなっているものです。

今回、私海上ミサコは「夢幻紳士 人形地獄」（The Dream Manipulator MUGEN）を応募しコンペインしました。渡航等を日本映画インフラストラクチャー協会（シネマプランナーズ）に手助け頂き、ロンドンまで行くことができました。改めて御礼申し上げます。

渡航したのは監督の私自身と、脚本協力の佐東あゆみさん、二人です。映画祭はヒースロー空港に近いノボテルウエストという都心から少し離れたホテルで行われました。会議室を4部屋借り、各作品を一週間かけて上映を行います。作品数も多いです。MP4で上映する為、音含めてコンディションは必ずしもよくありませんが、一般のお客は殆どいないので、気にする人はいないようです。



海上は自作の上映の2/13に訪れました。自作のかかった部屋しか見ておりませんが、その時は「with」（アメリカ）という音楽ドキュメンタリーを上映してました、お客は作品の関係者5、6人でした。次に「Amorphosis」（イギリス）という短編ホラーではお客は監督を兼ねた主演男性と他2名で、更に不具合でもあったのか？映画祭スタッフがPCを皆の前で取り換え、再生も途中からやり直してました。しかし、監督さんは怒らず見守ってました。

次の上映が「夢幻紳士」だった為、このままでは客が誰もいないと思い、「Amorphosis」監督含め、見てた人に呼びかけると、みなさん快くそのまま居てくれました。



「with」監督さんと



「Amorphosis」監督Noroさんと

上映前は予め用意した英語スピーチをしました。ガチガチでしたが、みなさんニコニコと聞いてくれ、ほっとしました。



そうこうするうち、一人男性が入り、お客は合計4名になりました。これで無事上映は終わりました。

最後の男性がエストニアの監督Mart Sanderさんで、上映後の自己紹介で、今日の最後の回が自分の上映だから見て欲しいと言われ、観ることにしました。この方のは「EerieFairyTales」という長編作品で、お客を15名くらい自力で呼んでました、犬同伴の方もおられ、一番盛り上がったんじゃないかと思います。作品賞ももらってました。



「EerieFairyTales」監督Mart Sanderさん



その晩は、ゲストプロデューサーやゲストの監督を呼んでのトークセッションがありました。映画をどう世界に向けて配給するか？というテーマだったみたいです。最前列でニューヨークから来た男のコが熱心にメモを取り質問してました。彼の作品は時間合わず見れなかったんですが、アメリカからも参加してる人は意外に多い様子でした。このトークセッションはお客は20人いるかいないかでしたが、盛り上がっていました。

最終日のレセプションは、17時から24時までという長丁場でしたが、短編/海外/ドキュメンタリー/教育/国内と多岐に渡って賞の項目がある為長時間のようです。（食事とワインが出ます）披露宴会場みたいな場所にテーブル席が12、3あり、みなスタッフに誘導されて座りました。テーブルの座りでもう賞がわかるようで（そういうものだとは後で判明）大きな賞をもらう人は最初から上座のほうに座ってました。



脚本の佐東あゆみさんと



会場の様子

「ひとくず」の上西監督はこのレセプションのためだけに来たそうです。主演男優賞と監督賞貰ってました。（獲れるって知ってたみたい・・・）その監督からから聞いたんですが、いつもは中国人の監督さんが多く、それも莫大な予算を使ったインディペンデント映画だそうです。今回コロナの影響でこれなかった方が多いらしく、映画祭自体閑散としてるようだとの事でした。確かにアジア人はあまりいませんでした。



「ひとくず」上西監督と



「Kinosaki days」林監督と



結果、賞が獲れなかったのも勝手に落ちこんでましたが、同じテーブルの人は、みな朗らかに飲んだり名刺交換したり写真撮ってたので、混ざって楽しくすごくことができました。

レセプションパーティーがほぼ終わったところで、台風が来ていたことと、翌日の飛行機が早かった為、私と佐東さんで帰ろうとしていたら「Amorphosis」の監督Noroさんが駆け寄ってきて、「夢幻紳士」の熱い感想を述べてくれました！気に入ってくれたみたいです。悪役の雛子という女性が気持ち悪くていい！ということでした。

最後の最後で救われた気持ちになりました。感謝！

よく金儲けの映画祭には注意しろと言われますが、私は考え次第だと思いました。お金があれば使って宣伝に生かせばいいし、なければ行かないか、行って別の価値を自分で見出すしかない。



マガジン（パンフ替わり）

英語喋れないので限界ありましたが。

- 1：自作の宣伝としてこの映画祭を利用する為に来た。
 - 2：作れるかわからないけど脚本を売り込む場としてきた。
 - 3：とにかく映画を作っていくから観てほしい、励みにして次も参加したい。
 - 4：なんかわかんないけど映画できたし、とりあえず来た。楽しい。
- こんな方々がおりました。

帰国後、思い直すことあり、3分カットし、93分が90分に縮まりました。次はこのバージョンで審査してもらいます。

まとめ・・・

世界との違いより、映画仲間に会えてうれしいという思いを含め、映画製作者に共通する部分を感じました。そして、やっと3分短く切る勇気が出た・・・素晴らしい経験でした。

次はもっと手際よく参加し、結果出したいです。友も増やしていきたいです。ご支援誠にありがとうございました！

レポート 海上ミサコ



BEACH WALKERS COLLECTION
#102,3-4-10 Hiratsuka,Shinagawa-ku,Tokyo,JAPAN 1420051



持参したポストカード



★まったくの個人的意見ですが、昨年の熱海国際映画祭でもウクライナの映画がグランプリで、ヨーロッパの小さい国のファンタスティックな映画といつも並ぶことになるので、これはなにか意味がある！と思っています。